

「急性期病院における認知症ケア」研修プログラム

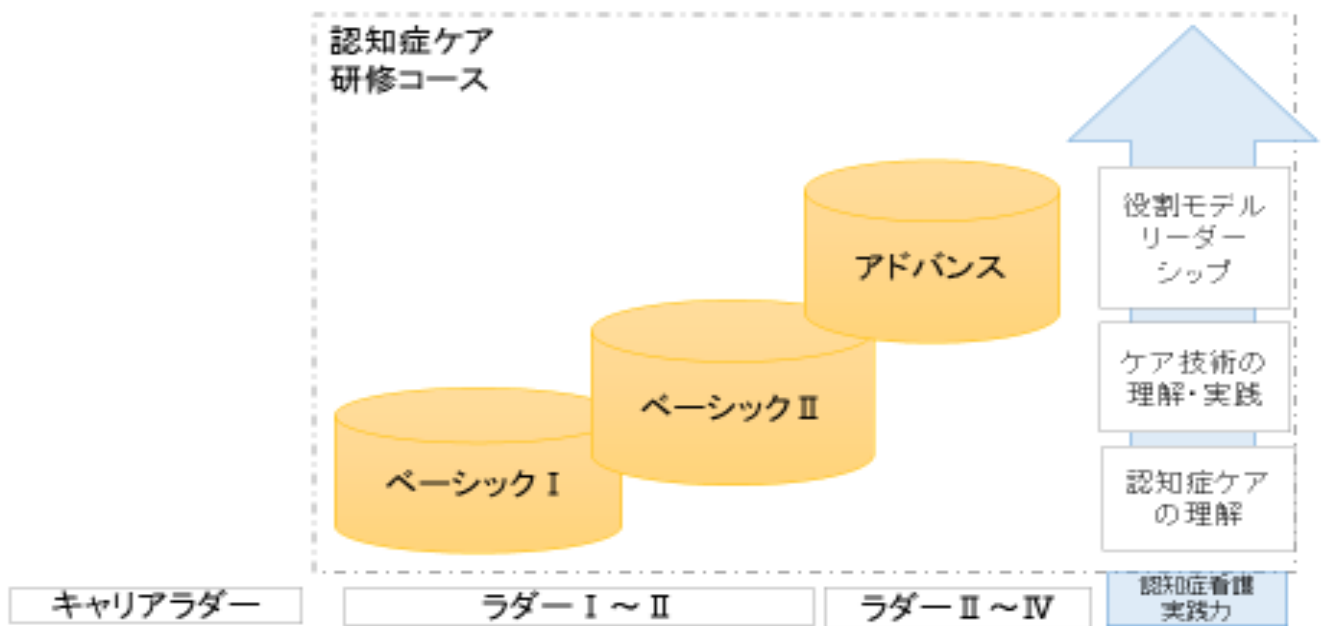
旭川医科大学病院

老人看護専門看護師、認知症看護認定看護師

I.プログラムの特色

急性期病院における認知症ケアには、コミュニケーション・退院支援・意思決定支援・環境調整・地域連携・拘束解除や低減に向けた支援、行動心理症状悪化予防、せん妄予防、倫理的課題の理解と支援があります。プログラムは、これらの専門的知識と技術を段階的に習得できるように、ベーシックⅠ、ベーシックⅡ、アドバンスと3段階の研修コースを設定しました。

習得段階は、基礎知識・技術のベーシックⅠを修了後、ベーシックⅡ、アドバンスを受講するように設定しています。全コースを修了した研修参加者は、部署で認知症看護におけるリーダーシップを発揮し、認知症看護の質の向上に取り組めます。



II.目標

1. 認知症看護に関する、知識・技術を理解し部署や院内において、認知症の重症度に応じた認知症看護ケアを実践できる人材を育成する
2. 認知症看護技術や専門知識習得に向けた教育プログラムを運営・評価し、人材育成に向けた急性期病院における認知症ケアの教育プログラムを企画する

Ⅲ.対象 各コースの対象と能力指標

	能力指標
ベーシックⅠ	認知症患者へのコミュニケーションの基本ポイントを理解している。せん妄予防ケアのための基礎知識、認知症ケアや行動制限最小化に向けて、スタッフや多職種と相談ができる。
ベーシックⅡ	認知症患者の重症度・個別性に基づいて看護計画立案・実践・評価ができる。 認知症症状における退院後の課題や患者・家族の気がかりを把握し、多職種と連携・調整できる。
アドバンス	所属する部署で認知症ケアに関する指導的な役割や認知症ケアに関する役割モデルを発揮・実践できる。 認知症ケアにおける倫理的課題や意思決定支援・アドバンス・ケア・プランニングを踏まえた看護に関する課題・葛藤を認識し、部署内・院内でより良い認知症ケア実践において検討できる。



Ⅳ.評価体制

1. 各コース終了後、テストで知識の振り返りを行い、7割以上を達成とする
2. テストによる客観評価の結果が評価基準を達成しない場合は、テストの再提出を求める。再提出によって7割以上を満たした場合は達成とする。

急性期病院の看護師が行う認知症ケア 研修プログラム

研修名	回数	目的	到達目標	対象	期間	内容	評価
ベーシックⅠ	1回目	認知症の病因・病態を理解する	認知症の基礎知識を理解し、対象者の思いやニーズに応える姿勢をもつことができる	ラダーレベルⅠ以上	年に1回 120分 (1回目60分 2回目60分)	講義 高齢者の特徴(身体面・心理面・社会面) 高齢者の生理的特徴(薬物動態、栄養・吸収) 認知症の基礎知識・認知症による精神的苦痛、認知症政策概要	能力指標に基づく知識の振り返り(ミニテスト)
	2回目	認知症を多角的に捉える視点を養い、健康の回復と尊厳のある入院生活を支援するために必要とされる役割を理解する				講義 認知障害の特徴と潜在的ニーズ・認知症ケアの実際 グループワーク・ロールプレイング GWで認知症患者と関わった体験を述べる 体験場面をロールプレイングで発表し、認知症患者のニーズとケアを振り返り参加者と共有する	
ベーシックⅡ	1回目	急性期病院入院により引き起こされやすい行動心理症状を理解する	認知症の行動心理症状を理解し、対象者の権利や尊厳を守りながら、患者中心の看護展開ができる 認知症患者にとって最善の看護実践を見出し、患者中心の看護を展開できる	ベーシックⅠ修了者	年に1回 120分(1回目60分 2回目60分)	講義 行動心理症状による困難事例への理解と対応 点滴を抜去してしまう高齢患者 転倒を繰り返す高齢患者 家に帰ると何度も繰り返す高齢者 突然大声で叫び看護師を叩こうとする高齢患者 e-ラーニング 認知症の人に対するコミュニケーション方法および療養環境調整	能力指標に基づく知識の振り返り(ミニテスト)
	2回目	行動心理症状の予防や、発症しても早期緩和に繋げるための支援を理解・実践する	①認知症高齢者のニーズに適切に対応できるコミュニケーション技術を習得できる ②認知機能障害の特性を踏まえながら、安全性と対象者の尊厳を配慮した生活・療養環境を検討・調整することができる			DVD: クローズアップ現代 No.3464:見つめて、触れて、語りかけて～認知症ケア ユマニチュード GW・ロールプレイング: 認知症高齢者の対応困難場面をロールプレイングで発表、看護現場の課題と身体拘束をしないケアを検討・共有する	能力指標に基づく知識の振り返り(ミニテスト)、実践可能なケア検討結果を合わせて発表
アドバンス	1回目	急性期病院における認知症患者に特有な倫理的課題の問題解決に向けた対応方法を考えることができる	認知症に関連したケアの現状を捉え、その背景と要因を分析し、倫理的課題の構造を理解する	ベーシックⅠ、Ⅱ修了者、もしくは認知症対応能力向上研修修了者	年に1回 60分	DVD「認知症高齢者の看護：パーソン・センタード・ケアの視点 vol.2:看護の工夫をしていますか？」 グループワーク: せん妄予防とせん妄発症・発症後ケアをグループで話し合い、発表する	能力指標に基づく知識の振り返り(ミニテスト)、倫理的課題の抽出とケアの方向性の発表
	2回目	その人らしさを尊重しながら、急性期病院で適切な身体治療や処置を受けることができるように、ケアの工夫を検討することができる	リフレクションを通して認知症患者の意思決定支援の課題分析とあり方をまとめ発表し、共有することができる			DVD: 認知症高齢者の看護：パーソン・センタード・ケアの視点 vol.3:意思決定の援助はしていますか？ グループワーク: 認知症患者が自分の意思で治療を決定するための支援(アドバンス・ケア・プランニング) ストマ造設の事例(もしくはリフレクション事例)をもとに本人の意思を確認する方法をグループで検討する	能力指標に基づく知識の振り返り(ミニテスト)、意思決定支援の課題分析グループ発表